

会 議 要 録

会 議 名		令和３年度 第１回 小平市青少年問題協議会
日 時		令和３年５月２８日（金）午後１時３０分～午後３時００分
場 所		小平市役所 大会議室
出席者等	委 員	１５名（欠席者 ２名）
	事務局	子ども家庭部長、教育指導担当部長、家庭支援担当課長、地域学習支援課長、生活支援課長、子育て支援課子ども・若者支援担当係長
傍 聴 人		１名
会議内容	１ 開会 ２ 委嘱状交付 ３ 委員自己紹介 ４ 会長・副会長の選任 ５ 議 事 （１）小平市青少年問題協議会の概要について （２）小平市子ども・若者計画の概要について （３）令和３年度の子ども・若者に関する主な事業の概要について ６ 情報交換・意見交換 ７ その他 ８ 閉 会	
配付資料	会議次第・席次表 資料１ 小平市青少年問題協議会委員名簿 資料２ 地方青少年問題協議会法・小平市青少年問題協議会条例 資料３ 令和３年度 子育て支援課 子ども・若者関連事業概要 資料４ 令和２年度 子ども家庭支援センター相談件数 資料５ 子どもの学習支援事業 資料６ 令和３年度 地域学習支援課 子ども・若者関連事業概要 青少年指導者用 人権尊重の社会 小平市子ども・若者計画書・計画概要版 小平市子ども・若者の意識・実態調査報告書 ティーンズ相談室「ユッカ」 令和３年度 小平市子どもの学習支援事業 個別学習教室受講生募集 こだいら保護司だより 社会を明るくする運動「＃生きづらさを、生きていく。」 ひらく - 未来をひらく、心をひらく - 令和２年度版 こだいら子育てガイド 若者応援ガイドブック	

○ 会議内容等についての意見・質疑応答

１ 議事

- （１）小平市青少年問題協議会の概要について
質疑なし
- （２）小平市子ども・若者計画の概要について

委員	計画作成時と現在とではコロナ禍も相まって社会情勢が大きく変化している。貧困の格差も広がっており、若者が経済的な理由で大学を辞めなければならない状況もある。計画の推進の際にはそのような社会情勢を大きな視点で捉え、現実の問題を加味していかなければならないのではないかと。
事務局	市のコロナ対策としては、国や都の支援から漏れたところを中心に支援を行っている。昨年度は、コロナの影響を受けて生活が非常に厳しくなっている児童養護施設退所者へ特別給付金を給付した。計画に掲げられていることだけでなく、計画の理念を以て新たな課題にも対応していきたい。

(3) 令和3年度の子ども・若者に関する主な事業の概要について
質疑なし

2 情報交換・意見交換

委員	児童養護施設の子ども達が集まる中で育っていくことで、関係機関の理解と協力を得られている。厳しい状況の中でも前向きに進んでいく子ども達をたくましく思う。そんな子ども達が困ったときに、相談したいと思える関係性を大切にしていきたい。また、相談できる場所として、関係機関同士の連携を深めていきたい。
委員	若者の相談場所について、どういったところがあるのかをもっとわかりやすく伝える機会が必要だと思う。どこに相談したら良いのか保護者も相談できず悩んでいるという話も聞く。
委員	国がヤングケアラーの実態調査を行ったが、ヤングケアラーの生活の実態がまだまだ見えにくく課題であると思う。コロナ禍で心も体も疲れている若者が多いのではないかと。そういった若者の早期発見、相談体制づくりが求められていると思う。同様に、若者の困窮についても実態が見えず心配な部分である。 資料4の相談件数の中からそういったものが見えるのか。
事務局	1つの家庭で様々な問題を抱えているケースがある。ヤングケアラーとして家族の世話をしている中で、生活に困窮していたり、虐待や貧困などが潜んでいたりする。こういった家庭は子ども家庭支援センターで支援している。一方で、純粋に家族の世話のみで困難な状況に陥っているが、恥ずかしくて相談ができないヤングケアラーもいると思われる。そういったケースは子ども家庭支援センターで捉えるのは難しいので、学校などで把握したら、子ども家庭支援センターへつなげてもらいたいと考えている。
委員	人とのつながりが重要であると感じている。コロナ禍で人とのつながりが少なくなってしまう中で、周囲の友人からは、相談する場所や、相談先とつながる機会がどこにあるのかわからないとの声を聞く。そういった相談先の情報を得やすくすることがこれからの課題だと思う。
委員	障がいのある子どもが成人し、就労するまでの相談先など支援の情報を得ることができた。障がいのある若者がどこに相談したら良いのかなど、自分の知識、経験を活かした視点で本協議会に参加したい。
委員	児童館や子ども家庭支援センターがなかった頃に、自分たちで子育てサークルを作り、子育て広場を開催してきた。そこで応援して下さるいろいろな

	<p>人とのつながりから、子育てサポートの NPO 法人を設立し、現在も活動している。今年で設立後 20 年になるが、子育て環境は 20 年前とは違うと感じる。支援した家庭の方から声をかけられたり、当時まだ小さかった子どもが成人したという報告を受けたりすると、続けてきて良かったという気持ちになる。</p> <p>休日や夜間などに、緊急で子ども家庭支援センターへ相談したいときはどうすればよいのか。また、悩んだときに SNS で相談できるような対応はあるのか。</p>
事務局	<p>子ども家庭支援センターでは現在、随時メールでの相談受付を行っている。リアルタイムでの返信はできないが、夜間でも相談をしてもらえれば翌開館日に確認し、力になれると思う。緊急の場合は、児童相談所の通年開所や警察など他の相談機関への相談となる。</p>
委員	<p>小学校の頃から小平市の子どもを対象とした様々な事業に参加し、たくさんの経験をさせていただいた。子どもを対象とした事業を今後も続けてほしい。コロナ禍では小学校の校庭開放などもなく、不要不急の外出を控える中では、小さい子どもは体力をもて余して寝てくれず、家の中で騒いで近隣に迷惑をかけてしまうこともある。コロナ禍でも子どもが体を動かして遊べる場所があるとよいと思った。</p> <p>また、コロナ禍で学校がオンライン授業となり、適応障害となった子がいるという話を聞いた。ティーンズの相談窓口はあるが、大学生が相談できる場所がもっと周知されればと思う。</p>
委員	<p>青少年リーダー養成講座は昨年度全て中止となった。今年度は 4 月に開講式は実施できたが、緊急事態宣言を受けて 5 月の講座は中止となった。この講座は子ども達の居場所でもあるので、今後は感染症対策をとりながら可能な限り実施していきたいと思っている。</p>
委員	<p>子ども・若者計画の対象者を見ると、30 歳未満の若者となっており、幅広いと感じた。警察署で扱う若者の案件も、年代によって異なる。少年の事案の内容としては、児童虐待が多いと感じている。家庭の支援を行う取組をお願いしたい。</p>
委員	<p>コロナ禍で給食のあり方が大きく変わった。仲良く喋りながら食べる従来の方法ではなく、全員が同じ方向を向いて静かに食べる「黙食」を行っており、それが給食委員会の活動目標にもなっている。対話する機会が少なくなっている環境の中で、中学生が SOS を出せる機会も少なくなることを懸念しているが、小平市では民生委員や放課後学習教室に携わる地域の方々が中学校に入ってきたり、小学校の青少対活動に中学生が参加したりできるので、そういった対話ができる機会はとても有難く思っている。</p>
委員	<p>本校の隣にある小平第十四小学校の生徒を招いて、高校生の部活動を体験してもらう取組を行っていたが、コロナ禍でできなくなった。今後再開できればと思っている。また、青少対が実施する催しなどの活動の際に、本校の生徒がお手伝いに行かせてもらっている。このような小学校と連携した活動を引き続き行っていきたい。</p>
委員	<p>民生委員・児童委員は、地域の皆さんの相談相手として接している。また、児童相談所や子ども家庭支援センターなどの各関係機関への橋渡しの役割や連携について情報交換を行っている。現在はコロナ禍なので集まって話し合いをすることはできていないが、そこでまた情報を地域に戻って共有している。</p> <p>子育て支援に関しては、子ども広場の活動を行っており、コロナ禍で現在</p>

	<p>までのところ活動できていないが、保護者の悩みに寄り添いながら、必要な情報提供を行うなど、みなさんの役に立てたらと思い活動している。</p> <p>ヤングケアラーについては、社会福祉協議会の生活相談支援員や高齢者の地域包括支援センターと連携しながら支援していきたい。</p>
委員	<p>保護司は、罪を犯した人たちが更生し円滑に社会復帰ができるためのお手伝いをしている。罪を犯した少年たちにも接している。みなさんもぜひ保護司を目指してほしい。</p> <p>この協議会で意見を交わし協議したことを次の世代に伝えていくことも、我々の役目だと思っている。みなさんと連携していきたい。</p>
委員	<p>児童相談所への相談件数は増えている。コロナの影響のみかは分からないが、家庭内で緊張状態が続いているのかもしれない。夫婦喧嘩や家庭内暴力による警察からの通告が増えている。</p> <p>貧困状態にある家庭において、ヤングケアラーの子どもと関わることもあるが、子どもから話を聞くと、必ずしも家族と離れて施設に入りたいと望んでいる訳ではない。むしろ、学校や友人との今の関係を維持しながら、生活の改善を望んでいる。そういった家庭とどう関わっていきべきかについて、関係機関の方々と一緒に考えていきたい。</p>
会長	<p>新しい委員構成となり、各委員が今までとは違った視点で話していただいたことで、この場で新たな情報共有ができ、また、新たな横のつながりができた。本日いただいたご意見は、事務局において今後の施策の参考にされるものと思うので、次回以降も積極的にご意見をいただければと思う。</p>